

令和7年度

学校関係者評価報告書

令和8年2月

筑波研究学園専門学校
学校関係者評価委員会

■令和7年度 学校関係者評価について

筑波研究学園専門学校では、平成20年度より自己点検・評価委員会を設置し、日頃の教育活動について自己点検・評価を実施してきました。また、平成25年度からは、企業及び業界団体や保護者、卒業生等で構成する学校関係者評価委員会を設置し、様々な立場を代表する委員の皆様から学校運営・教育活動実績報告書をもとにご議論いただき、本校の学校運営や教育活動に対して点検・評価していただいております。

以下、先般開催した学校関係者評価委員会の評価結果について報告します。

1. 実施日時・場所

令和7年9月5日（金）14:00～16:00	筑波研究学園専門学校 6号館 大講義室
令和8年2月12日（木）14:00～15:30	筑波研究学園専門学校 6号館 保育演習室

2. 実施方法

(1) 実施組織：学校関係者評価委員会

○委員長

野口 孝之	学校法人筑波研究学園 理事 筑波研究学園専門学校 学校長
-------	---------------------------------

○評価委員

小吹 公彦	学校法人 霞ヶ浦高等学校 進路指導部 副部長	教育関係
鈴木英利也	一般社団法人茨城研究開発型企業交流協会 副会長 株式会社 ベテル 常務取締役	業界団体 (地元企業)
石井 聖信	茨城県自動車整備振興会土浦支所 教育課 課長	業界団体
相澤 晴夫	株式会社 相澤建築設計事務所 代表取締役 一般社団法人茨城県建築士事務所協会 常務理事	地元企業 (業界団体)
坂巻 操	筑波メディカルセンター病院 事務部医事外来一課長	地元企業
倉田 和典	社会福祉法人えがお 理事 法人本部長 兼 施設統括部長	地元企業
舘野 仁志	五籃会会長（保護者会代表）	保護者
笠間 俊雄	輝峰同窓会会長（卒業生代表）	卒業生

○学校関係

佐久 芳夫	学校法人筑波研究学園 理事長
湯浅 敏弘	学校法人筑波研究学園 理事 筑波研究学園専門学校 総務部 部長
岡田 地余	筑波研究学園専門学校 IT デジタル学科 学科長
齋田 光幸	筑波研究学園専門学校 自動車整備工学科 学科長
中野 大希	筑波研究学園専門学校 建築環境学科 学科長

宮本 晃太	筑波研究学園専門学校 医療情報学科 学科長
福田 翔平	筑波研究学園専門学校 こども未来学科 副学科長
松田 静佳	筑波研究学園専門学校 こども未来学科 副学科長
杉山由紀夫	筑波研究学園専門学校 キャリア支援センター センター長
谷口 和巳	筑波研究学園専門学校 入学・学生支援部 副部長
水越 武	筑波研究学園専門学校 教務部 副部長

(2) 評価基準：文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠

(3) 評価方法：令和7年度学校自己点検・評価報告書に対する学校関係者評価

3. 評価の項目

次の11項目について実施

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受け入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献
- (11) 国際交流

4. 評価項目に対する評価

(1) 各項目について、次の4段階を基準とし、小数点第二位で評価しています。

4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

(小数点表示は評価者の平均点を記載)

(2) 委員会で提出された意見や質疑、提案事項等を記載

5. その他

令和7年度 学校自己点検・評価を併せてご覧ください。

項目 1 教育理念・目標

評価：3.96

- ① 理念・目標は明確で教育方針に一貫性があります。今後は成果指標をより整理し、計画と結果のつながりを明確にしていくことを期待します。
- ② 学友会の活発な活動により、学園祭はより学生主体となってきました。今後は、自分たちの学校をより良くする視点から、各種委員会を立ち上げ、教育活動へ積極的に参画することを期待します。
- ③ 理念・目標が共有され、教育活動や学生支援に一貫して反映されています。今後も継続されることを期待します。

項目 2 学校運営

評価：3.87

- ① 運営体制は概ね整備され改善姿勢も見られます。一方で ICT 運用など教職員負担が増えやすく、業務の平準化と改善の優先順位付けが課題と感じます。
- ② 全てにおいて生成 AI の活用は必須になると思います。業務効率化・経費削減・教育の質の向上での成果を期待しております。
- ③ 業務が担当者任せになると遅延が生じやすくなります。管理者間の横の連携を強化することで縦割りを防ぎ、業務の遅延解消につながる体制整備が必要です。特に、教務部・総務部の強化が求められます。
- ④ 役割分担と連携により安定しています。退学・学修・進路などの状況把握をさらに“見える化”すると、より強い運営になると感じます。

項目 3 教育活動

評価：3.87

- ① 授業改善や ICT 活用など教育の質向上に取り組まれています。今後は学科間での実施の差を減らし、授業改善の標準化を進めることが重要と考えます。
- ② 90 分授業は効果が現れていると見受けられるが、グループ学習については学生それぞれの性格もあり、どうしてもなじめない子もいると思うので、上手にフォローしてほしいです。
- ③ BYOD 関係では、教育内容によってはスマートフォンだと思いうようにいかない場合があると思うので、適切なデバイス（性能要件）を推奨・提示してあげるのも良いかもしれません。
- ④ BYOD 環境がある中での学習は学生生活に合っていると思いますが、個人のデバイスに頼るのは環境格差が発生する可能性もあるので対策の検討が必要と思われます。
- ⑤ 資格取得は重要ですが、受験指導中心の授業では専門学校の意義は薄れます。実践的な学びを重視し、AI も活用しながら学び方を身に付け、主体的に学ぶ姿勢を育てることが重要

です。

- ⑥ 資格取得や就職を意識した教育活動が継続されており評価できます。補習や学習支援の標準化で、学力差の縮小がさらに進むと期待します。
- ⑦ 生徒への教育については、これまでの先生方の頑張りにより成果が出てきていると思います。これからも、より先生方の力が必要になって来ると思いますが、一方、先生方への無理な負担がかからないかも心配です。(研修一覧を見て、想像以上に研修をしていたため)

項目 4 学修成果

評価：3.75

- ① 就職・資格取得の成果は一定水準を維持しています。ただし成果のばらつきも想定されるため、弱点分析と個別支援の仕組み強化が必要と感じます。
- ② 資格の合格率が過去と比較して下回っている部分が見受けられます。必要な資格かどうかも含めて検討してはいかがでしょうか。
- ③ 専門学校には、職業人としての意欲を引き出す役割があります。資格取得や学力だけで学生を判断するのではなく、その評価が将来に与える影響の大きさを十分に認識する必要があります。
- ④ 成果は確認できる一方、学科・資格で差が見られます。弱い分野の早期対策（つまづき分析と定着確認）を強め、底上げにつなげてほしいです。

項目 5 学生支援

評価：3.73

- ① 相談体制や進路支援などの取り組みは評価できます。今後は支援が必要な学生の早期把握と、継続フォローの強化を期待します。
- ② 今後ますます留学生も増えていくと考えられるが、その支援については今後も様々な検討を行い、適切に対応をされるよう期待しております。もちろん留学生に限らず全ての学生が安心して学べるような取り組みを願います。
- ③ 感染症に罹患した生徒の管理体制を見直す必要があります。
- ④ 学生の日常生活に目を向けた支援を充実させるとともに、卒業生への継続的な支援体制を学校の重要な資産として位置付けることが必要です。
- ⑤ 早期相談の導線を明確にすると、定着支援がさらに強化できると思われれます。

項目 6 教育環境

評価：3.83

- ① 学習環境は整備されつつありますが、BYOD や ICT の活用を定着させるには運用ルールと教職員支援の強化が必要と感じます。

- ② 教育に必要な機器は十分に整備されています。
- ③ 施設・設備には老朽化も見られますが、学習環境は十分に整っています。教職員には、これらを有効に活用していただきたいと思います。
- ④ 学修・資格取得につながる環境が整っていると思われます。

項目 7 学生の受け入れ募集

評価：3.73

- ① 募集活動は継続して行われているようですが、今後は志願者確保の競争を踏まえ、強み(就職・資格・教育内容)の見せ方をより明確にする必要があります。
- ② 万が一のために、業務の引き継ぎ(マニュアル整備)について、力を入れていくのは良いことだと思います。
- ③ 留学生の受け入れが拡大する中、募集体制については、日本人学生の募集とは分けた体制を整えることが望ましいのではないのでしょうか。現体制でも課題が多いのであれば・・・。
- ④ 留学生受け入れ実績が拡大し、多様化も進んでいます。増加に合わせて学習・生活支援の体制を計画的に整えることが重要であると思います。

項目 8 財務

評価：3.89

- ① 財務運営は安定している印象です。一方で教育投資(ICT・教員研修等)とのバランスを中長期で検討し、持続性を高めることが望まれます。
- ② 予実管理は適切に行われており、将来的な経営管理面については信頼できると考えます。

項目 9 法令等の遵守

評価：3.97

- ① 法令遵守の体制は概ね適切と思います。今後も個人情報管理や ICT 利用の面でリスクを想定し、定期的な点検と周知の徹底を期待します。
- ② 学校として、法令は十分に遵守されているものと推察します。
- ③ 取組の成果を整理して発信できると、評価がさらに高まると考えられます。

項目 10 社会貢献・地域貢献

評価：3.92

- ① 地域貢献活動は継続して実施されているようです。今後は活動の目的と教育効果を整理し、学びに直結する形で発展させると良いと考えます。
- ② 施設貸出や対外的なボランティア活動など、地域に開かれた取り組みは、町の中でも良い

印象を与えています。これからも、地域とのつながりを大切にした活動を継続していくことが望まれます。

項目 1 1 国際交流

評価：3.81

- ① 留学生対応を含め国際面の取り組みは評価できます。今後は生活支援に加え、就職・定着まで見据えた支援体制の充実が重要と感じます。
- ② 留学生の受け入れ拡大は、日本人学生にとってもグローバルな視点を育むうえで大きなプラスとなります。留学生が安心して学べるよう、納得感のある支援体制を強化し、不満の生じない学習環境を整備してください。
- ③ 留学生受け入れの拡大により、日常的な国際交流が進んでいます。支援の体系化（日本語・生活・進路）で、交流の質がさらに高まると感じます。
- ④ 既に対策に挙がっていましたが、特殊な事が多いため、連携を密にして欠員が出ても問題がない体制づくりが必要と思います。